



カラスウリ号

《私が子どもだった頃》(後編) 川町内会 源波 修一郎

【雑木林は山菜や果物の宝庫】

春は、侍従川の岸辺の土手や田んぼの畦には、セリ、ツクシ、ノビル、ヨモギなど香りの深い山菜を採り自然の春を感じていました。初夏は、山菜のゼンマイ、ワラビ、フキなどをたくさん採って、ご近所におすそ分けしたものです。

夏は、桑の実、木苺、サクランボなどがたくさんありました。今の鎌倉霊園のところに砲台山があり、周辺には山桜がいっぱい咲いてきれいでした。この桜が実をつけ紫色になると、弁当箱を持ってサクランボを採りに行き、口の中や服も紫色にし、帰ってからよく怒られました。砲台山は、地下には地下壕があり、子どもたちの格好の遊び場でした。

秋は、近くの山は山栗やアケビやカラスウリなどがいっぱいあり、ヒラタケやヒメジなどのキノコ狩りができました。山栗は、その場でイガと渋皮をむいて、茹でないで生でおやつとして食べました。アケビは、米びつの中へ入れて熟してから食べました。カラスウリは、足に塗ると、かけっこが速くなると言われていたので、運動会の前にはよく採りにいきました。



カラスウリ (烏瓜)

学名: *Trichosanthes cucumeroides*

中国・日本(本州、四国、九州)に分布するウリ科のつる植物で、秋になると朱色の果実になる。が、苦くて食べられない(若い実は漬け物にすることもある)。地下には芋状の根があるが、これも不味で食べられない。

秋になると、今まで上に延びていたつるが地面に向かい、地面にふれると根を延ばしてそこで芋を作り、翌年またそこから新たに芽を出す。

夏の夜に白いレースの様な見事な花を咲かせる。種を財布に入れるとお金が増えるとか、実を足に塗ると速く走れるなどの言い伝えもある。

解説: 山田陽治

初冬は、自然薯掘りに行き、笹で2~3本つつんで帰ることもありました。自然薯は土の中を深く根を張るように成長しているので、掘った穴の中に、頭を突っ込みながら芋を折らないように慎重に掘りました。大きな自然薯が完全に掘れると、達成感を味わえたものです。掘った穴に頭を突っ込むと、土の香りが何ともいえない温かみと癒しを与えてくれました。自然薯は麦とろろごはんが何と言っても一番おいしく、立派な自然薯は、お正月まで庭に埋めて保存しました。

【懐かしい人との出会い】

西大道に住んでいた昭和20年代は、今の金沢八景一原宿線の道路はまだ総武隧道が開通したばかりで、砂利道を農家の高橋さんというおじさんが本郷から牛車に野菜をつんで売りに来ていました。今は公園になっていますが自宅前が広場でしたので、おじさんがそこで牛を休ませていました。牛は、のんびりと雑草をついばんでいました。

それから60年が経った現在、私が定年になってから、六浦の長生寺の壮年会に入り、鎌倉組の壮年会理事会の高橋理事長が前述の高橋さんというおじさんのご子息であることがわかりました。そう言われてみると、確かに父親の面影があります。西大道の昔の話をしているうちに、ご当人も牛車で子どもながら一緒に来ていたことが分かり、互いに懐かしい人との出会いに感激したものでした。

【おわりに】

侍従川を中心に私の子どもころは、自然豊かな中で、毎日サバイバルゲームをしているような時代であったと思います。近隣の雑木山や里山が開発され、私が子どもだった頃の自然環境を今の子どもたちが味わうべきもない姿になってしまった現在、せめて侍従川を昔の清流に甦えらせて、その名残を残してほしいと祈念しております。

トピックスその1

- ◎5/24…六浦小学校3年 侍従川のレクチャー（佐野が対応）
- ◎5/28…六浦小学校3年 侍従川探検（細川、佐野が対応）
- ◎5/31…六浦小学校3年 侍従川の生き物観察指導（山田が対応）
- ◎6/15…パタゴニア・ベイサイド・アウトレット店頭で、侍従川ミニ水族館、侍従川の生き物めぐりでPR（学生部：深沢、長崎 ジュニア：柴田、金沢と山田が対応）
- ◎6/18…大師高校1年 選択体験活動で侍従川体験（飯村が対応）
- ◎7/1…六浦小学校3年 侍従川探検（細川、佐野、山田が対応）
- ◎7/18…高舟台小学校5年 侍従川レクチャー（山田が対応）
- ◎7/19…①高舟台小学校5年 侍従川調べ（細川、佐野、山田が対応）



侍従川水族館ニュース

横浜市立大道小学校 玉利海太郎

侍従川水族館実行委員スタート! 昨年度、4年生と一緒に総合的な学習の時間で侍従川について調べました。子どもたちの「自分たちが調べた生きものをみんなが知ってもらえるように、エコルームに水族館を作りたい!」という思いから、「侍従川水族館」をつくりました。様々な角度から侍従川について学び、環境の大切さを伝える教室です。

取り組んできた学習も終わり、侍従川水族館を今年度の4年生に引き継ごうかと考えていたころ、「侍従川水族館を続けたい。」という思いを子どもたちが伝えてきました。そこで、今年度は「侍従川水族館実行委員」として水族館にいる生きものの飼育員として6名の5年生が水族館で活動することになりました。目標は「生き物体験博物館を開こう!」です。目標に向かい、がんばって飼育活動を続けています。

飼育下のウロハゼが産卵 8月30日(金)、私が各水槽の餌やりをしていた時のことでした。ウロハゼがいる水槽のガラスに黄色いものが一面に付着しています。ガラスに汚れが付いていると思いましたが、よく見ると1mmにも満たない黄色い粒がびっしりと付いています。そこでウロハゼの卵だと分かりました。近くには親であろうメスのウロハゼが時折卵に体を寄せています。何やら尻鰭と尾鰭を動かし、卵に水を送っているように見えます。卵を他のウロハゼから守っているのと同時に、新鮮な水を卵に送っていると考えられます。



親のウロハゼが卵に密着しています

9月2日(月)、卵が孵化しました。孵化した稚魚は約500匹。ろ過装置に吸い込まれるので水槽を別にして、酸素が不足しないように僅かな空気をエアレーションで送りました。餌は川魚用粉末えさを乳鉢ですりつぶし、粉末状にして与えました。



小さな稚魚がはっきりと顕微鏡で観察できました

5年生の理科でメダカの稚魚を観察する機会があり、子どもにウロハゼの稚魚の観察もさせたところ、「腹が黒い。」「メダカの稚魚のように腹に養分を蓄えている様子はないね。」など様々な声があがってきました。

9月5日(木)、稚魚の数が半分になっていました。これ以上飼育ができないと考え、侍従川に放流することにしました。原因は分かりませんが、調べたところ稚魚は定期的な水換えを行い、清潔な水質を高めることが必要だそうです。また、餌の食いつきも途中から悪くなったため、餌が稚魚に適さなかった可能性があります。

「せっかく孵化したのだから、最後まで育てたい。」という気持ちは私も子どもたちもありましたが、今回放流した稚魚にまた侍従川で出会えることを楽しみに今後の活動も子どもたちと一緒に励んでいきます。

会員のつどい

【活動報告1】

6月8日(土) 18:00~19:00

大道コミュニティハウス2階多目的室

廣瀬隆夫

- ① 役員の交代について 長橋さん
- ② 新旧交代のご挨拶 相川前会長、山田新代表
- ③ 規約改正について 廣瀬
- ④ 今後の侍従会の活動について 寺尾さん
- ⑤ 平成24年度会計報告と平成25年度予算 田辺さん
- ⑥ 平成24年度のクリーンアップの報告 細川さん
- ⑦ 平成24年度学生部調査活動報告 佐野さん
- ⑧ 平成24年度の活動報告をスライドショーで振り返る 寺尾さん



本年度の会員のつどいは、20年という長きにわたり会長を務めていただいた相川さんが退任され、新たに山田さんを代表とする新生・侍従会のお披露目式も兼ねて行われました。

相川さんは今後も侍従会のメンバーとして活動に参加していただけたということでした。また、山田さんに新しい侍従会についての抱負を熱く語っていただきました。

たくさんの方に参加していただき今後の侍従会の活動についての活発な意見交換が行われました。参加いただいた皆様、ありがとうございました。

相川さん、長い間、お疲れさまでした。

ホタル観察会

【活動報告2】

6月8日(土) 19:00~ 大道中学校

廣田結衣

毎年大道中学校で行われているホタル観察会が今年も6月8日に行われました。今年のホタルは例年より少なかったそうで、この日観察されたホタルのピークは32個体でした。ホタルは少なかったものの来てくださった人たちはとても多く、ホタルがフワッとあちこちで光るたびに静かな歓声が上がりました。また、会のメンバーの方がホタルに関する詳しいことを話してくださり、大人から子どもまで楽しめるとても良い会となりました。

大道中学校に流れるこの川では毎年侍従会の活動として、ホタルが飛ぶことのできるスペースを確保するための草刈りなどが行われていますが、ホタルが減ってしまった理由にはどんなことがあったのでしょうか。



6月定例クリーンアップ

【活動報告3】

6月23日(日) 9:20~12:00 晴れ 25℃

朝比切り通し下~大道東橋(ゴミ拾いと草刈)

細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、石塚正夫、村田章夫、北村肇、外川忠志、鳥越昌三、鳥越珠貴、鳥越龍、山田陽治、佐野真吾、深沢大地(久木中)、柴田真穂(屏風ヶ浦小)、細川一雄(計17名)

梅雨の合間の晴れ間の日の作業となりました。気温は25℃とそれほど高くはありませんが、湿度が高くじめじめとしていて、倉庫から出したカマが皆錆びていました。急いで砥石を出し、刃を研いでから作業開始です。

今回は、今年初めての草刈り機の出番でしたが、草刈り機のスロットルを何度引いてもプスプスというだけでエンジンがなかなか掛からず30分以上も引っ張っていたため、その作業だけでくたびれてしまいました。

前回同様、子ども達は山田さん、佐野さんと一緒に、大道東橋から大道橋までの清掃作業。大人たちは源流域から大道橋までの清掃と大道橋上流の草刈り作業を行いました。

源流域は崖の上から蔦が下がっていて、川面に殆ど日が当たらないため、手が届く範囲の木の枝打ちをしました。少人数と機械がない状態では余り状況が変わりませんでした。今後行政に依頼するかもっと大規模に作業を行う必要があると思います。

ゴミを拾いながら大道橋の上流まで下り、他のメンバーと合流しました。子ども達も川の清掃をしながら既に大道橋まで上がってきていました。草刈り作業は、草が増水で倒れているため刃がうまく合わず、草刈り機を使っていた北村さんが難渋していました。また、川の左岸に小さなハチの巣がありましたので、今年は刺されないように迂回して作業を続行しました。途中何度か休憩をとり、刈り取った草を束ねて護岸に立てて乾かす事にし、次回のクリーンアップ時に引上げる事にしました。12時頃に作業を終了し、子ども達にお菓子とジュース、大人達には喉を潤おす飲み物を買ってちとせ園でしばし休憩後解散しました。



大道橋上流の草刈り
(草刈り機)



大道橋上流の草刈り
(手作業)



刈り取った草は束ねて
護岸に掛けて乾かします



回収した8袋分のゴミ

7月定例クリーンアップ

【活動報告4】

7月28日(日) 9:00~11:00 晴れ 34℃

大道橋上流50m~100mの間(草刈り)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、村田章夫、八木場紀元、外川忠志、高木之靖(計6名)

今回は、6名と非常に少ない人数での作業となりました。しかも実際に鎌と草刈り機で作業できるメンバーが4名のため作業が大変でした。唯一若い高木さんが来てくれて大変助かりました。また、長老の長野さんが作業を見ていて思わず手伝おうと柵を乗り越える時に足を滑らせ落ちてしまいました。幸い怪我は無かったようでホッとしました。

そのような状況から、先月刈り取った草を上げ、残りの区間を実施しようとしたのですが、体力の限界に阻まれ11時には作業を中止して終了しました。

後日(8月14日)に残りの区間を4名(細川、西澤さん、村田さん、角田さん)で草刈りと、刈り取っておいた草の束ね作業を行いました。途中で休憩していると、水道局の人が上流の遊水池の水を300トン程放水するので作業を中止してくださいとの要請がありましたので、急いで草を束ね陸に上がって作業を終了しました。マンションを建てる時には敷地の下に遊水地を作っているようです。私たちの知らないところで川の氾濫対策が採られていて待従川の氾濫を防いでいる事を再認識しました。時間があれば、近隣の遊水地を調べてみようと思います。



刈り取った草とゴミ(5袋)

ジュニアキャンプ in 野島

【活動報告5】

8月3日(土)、4日(日)

寺尾勝廣

当日の朝、山田さんと六浦駅で待ち合わせましたが、予定の電車が過ぎ去っても、山田さんが降りてこない…5分過ぎた頃に、「車内で荷物をぶちまけた! 田浦からタクシーで大道小学校にいきます」との連絡。リーダーとしての初キャンプは波乱を予感させる幕開けとなりました。

子ども21名、スタッフ6名の予定がスタッフ3名(2名は夕刻以降に合流)でのスタート(2名は体調不良)。不穏な空気はスタッフ不足の形で正体を現したのです。

でも、この状況を逆手にとって始まりのあいさつの時に「スタッフが今少ないです。テントの設営・食事の準備も自分たちでやらないと眠る場所もないし、食事ありません。楽しく遊ぶために力を合わせよう」と話をしました。この一言が効いたのか、子どもたちは協力し合ってテントを広げだしました。

メッシュテントは私の出番。ポールとロープとペグだけで立てるので、付属のロープ以外で立てるのは一般の方では少々難しいのです。この時、スタッフのコロちゃんサブについて、しっかり“張綱結び”をマスターしました。よしよし！！スタッフも経験、経験。ひとつの経験、ひとつの思い出、ひとつの技術、ひとつだけでも自分に残ればこのキャンプは大成功と言えるでしょう。

テントができるとみんなで食事、と思ったら暑かろうに大半がテントの中で食事をしていました。きっとで秘密基地で食べている気分なんだろうな～

食事の後はお待ちかねの海遊び。引率は山田さんとコロちゃん。私寺尾は留守番。残念ながら、海での出来事、食事の準備、花火は、現場にいなかったので文章が書けませんm(_ _)mでも、子どもたちの顔を見れば、楽しかったことは明らかです。

既に夜10時を回っています。日常と違う、みんなで楽しくむかえた夜。今日は特別！突然の夜の虫観察会となりました。セミの幼虫がワッサワッサ、子供たちは大興奮。眠くなるどころか一段と興奮してしまいました。最終的に寝る時間は子供たちに任せましたが、だんだんと静かな声になっていきました。寝てはいないようでしたが…

翌朝、まずは朝食の準備。手軽な野菜やゆで卵、ハムを使ったサンドイッチ。パンに具を挟んで食べるセルフ形式。子供たちが用意した食パンはなぜか1/4サイズ。具がぽろぽろと脇からこぼれて、ハトにも朝食を提供してしまいました。

食事の後はテントの乾燥作業。これをしっかりやらないと、次回の使用するときにはカビの館になってしまいます。フライをはがしてロープにかけて、テントをひっくり返してから数名を残して海レクに出発していきました。

しかし、最大の事件はこの後に発生しました。ぼちぼちと片づけをしていたところに、次のお客さんが到着！ ゲゲッ！ 9：30が撤収だったのです。

海遊びの仲間を呼び戻して（半数は発見できず！）、何とか荷物をどかすことができました。キャンプサイトもBBQ場も空きはなし。対策を思案していたところ、野島研修センターのキッチンを使用させていただくことになりました。センターの皆さんありがとうございました。トラブルはあったものの、最後に冷房の効いた部屋でみんなでソーメンを作っておいしくいただきました。結果よし！

これを最後に楽しい時間は終わりを迎えたのでした。



生き物発見記録

- 神奈川県準絶滅危惧種アブラハヤを数年ぶりに確認
6/23 大道橋付近（山田陽治採集）
7/18 第二山王橋付近（佐野真吾採集）
- 今年5月に初記録されたミナミテナガエビの追加情報
6/23 に2例目（深沢大地採集）
7/1 に3例目（佐野真吾採集）
7/18（高舟台小学校5年生採集）
- 侍従川流域におけるニホンアマガエリに新産地
6/30 大道中学校裏山にある畑のバスタブから発生しているのを確認（佐野真吾確認）
- 神奈川県準絶滅危惧種、ゴクラクハゼを初発見
7/1 侍従川中流域明戸橋付近（六浦小、角田君と田口君が採集、2ページに写真）
- 大型のミヤマクワガタを東朝比奈で拾う
7/10 路上に落ちていたのを採集（佐野の父採集）
- 神奈川県絶滅危惧IB類、カワアナゴを初発見
7/19 侍従川中流域明戸橋～二の橋付近（佐野真吾採集）



トピックスその2

- ◎7/21…①パタゴニア・ベイサイド・アウトレット 侍従川イベント（山田が対応）
- ◎7/29…ボーイスカウト横浜第24団ビーバー隊/カブ隊 侍従川探検&生き物レク（佐野が対応）
- ◎8/8…②大道小学校 はまっ子ふれあいスクール 侍従川体験（佐野、島村が対応）
- ◎8/17…③大道村川歩き（佐野が対応）
- ◎9/4…大道小学校3年 侍従川レクチャー（佐野が対応）
- ◎9/9…六浦小学校3年 侍従川調べ（細川、山田が対応）
- ◎9/14…侍従川ハゼ釣り大会 雨天延期→10/6実施



毎年恒例のヤンマとり大会が行われました。

ぼくはトンボが大好きなので今年も参加しました。今回は瀬上市民の森・森づくり活動団体の瀬上さとやまもりの会と共同開催のヤンマとり大会でした。いつもの侍従会のメンバー以外に初めてヤンマを捕るという子ども達の参加があり、30人ぐらいの人が集まりました。

さらに、途中から野鳥の会のトンボ観察の方達とも会って、たくさんの人と一緒にヤンマを観察しました。ぼくは家が近いこともあって、この会のために大きな網に4メートルも伸びるさおを用意して、8月から毎週週末に瀬上に行って飛んでいるヤンマを佐野さんへ連絡していました。

当日は雨の予報でした。雨は降らなかったですが曇っていたため、皆が捕りたい目的のマルタンヤンマのオスやその他のヤンマも飛ばないかもしれないと思っていました。マルタンヤンマのオスはコバルトブルーの複眼に黄色とコバルトブルーの筋の体ですごくきれいなトンボです。そして夕方薄暗くなると時速70キロの速さで飛ぶので、毎年皆で網を思い切り振り回してもなかなか捕れません。

栄高校の正門に集合して、みんなを待っていると一番最初にウスバキトンボが捕れました。

瀬上の小川沿いに進むと川の上で縄張りをパトロールしているコシボソヤンマのオス、道の上を飛んでいるコオニヤンマ、コシボソヤンマ、川の草の上にいるハグロトンボ、田んぼの近くではシオカラトンボ、オオシオカラトンボ、赤いショウジョウトンボが捕れました。池の下の広場では突然飛んできたヤブヤンマを大地くんが捕ってくれました。皆で青い複眼と緑に黄色い筋のきれいな体を観察しました。

広場の上の方ではオニヤンマやマルタンヤンマのオスとメス(羽が少し赤いので下から見ると判る)が飛んでいました。

夕暮れが近づいて来ると上で飛んでいるヤンマが下に下りてくるので皆で網を持って待ち構えていましたが、網で捕れる高さまでには降りて来ませんでした。

残念ながら今年も念願のマルタンヤンマのオスは捕れませんでした。あたりはさらに暗くなり、暗くなるなかを飛ぶミルンヤンマが捕れました。

来年こそマルタンヤンマを絶対に捕りたいです。



8月定例クリーンアップ

【活動報告7】

9月1日(日) 9:00~12:00 晴れ 32℃

大道橋上流100m~青木橋(草刈)、原流域~大道東橋(清掃) 細川一雄

参加者：西澤博厚、村田章夫、八木場紀元、角田繁、石渡博、関場俊子、北村肇、外川忠志、山田陽治、片岡生一、小野田こうすけ、鳥越昌三、鳥越珠貴、鳥越龍、今井康祥、今井翔太(鶴見区)、田崎(笠間小)、細川一雄(計18名)

先週が雨で中止となり、今回も台風15号の影響で中止になるか心配しましたが、運よく台風が温帯低気圧になり晴れましたので、予定通りクリーンアップを実施しました。倉庫にある鎌(9本)を高舟台町内会で行っている包丁研ぎに出して刃を研いでもらい、更に草刈り機の刃も新品に交換し万全の体制ですが、当日は残暑厳しく、更に湿度も高いという悪条件の中での作業となりました。

今回は、鳥越さんと今井さんが家族で参加してくれました。さらに高舟台の関場さんが草刈りなら手伝えますよと初めての草刈り参加となりました。前回同様、子ども達は山田さんと一緒に大道東橋から上流に向かってゴミ拾いと生き物観察・採集作業。大人たちは草刈り作業のため大道橋の上流に向かいます。私と関場さんは2人で源流域まで遡りゴミ拾いと途中草刈り・セイタカアワダチソウの引き抜き作業をしながら川を下ります。

源流域は人が余り入らないので子どもが捨てるようなお菓子の袋や紙が殆どないのに、コンビニ袋や大きなビニール(4m×3m位)、ビン・缶・ペットボトルが落ちています。もっと上流から流れてくるのか、県道沿いのゴミ置き場から落ちてくるのか分かりませんが不思議です。途中袋が満杯になり、持ち歩くのが大変でしたので、金之橋脇に上げておき、後で外川さんに回収してもらいました。

また、耕地橋の下には中身が入ったままの状態タバコの吸い殻が入れてあるペットボトルが沢山(20数個)落ちていました。特定の人物の仕業と思いますが



大道橋上流で関場さん



耕地橋下のペットボトル
(タバコの吸い殻)



草刈り後(下流の奥が大道橋、
右側横浜屋)

ペットボトルを灰皿、川をゴミ捨て場と考えているのでしょ。区政推進課にゴミ捨て禁止の看板を立ててくれるようお願いしました。

また、セブンイレブンの裏は草刈りをしていないため草が沢山生い茂っていて大きな草だけを刈るだけでも時間を食ってしまいました。急いで草刈りグループと合流しようと川を下って青木橋の下流まで来たときは11時30分近くになっていて、既に草刈りグループは上げた後でした。先月刈り取った草（7月28日、8月14日）を引き上げて外川さんに県営住宅まで運んでもらいました。

青木橋までの草刈り作業は大変だったようで皆さんぐったりしていました。真夏の作業は暑さと湿気で体力を消耗する過酷な重労働だと改めて痛感しました。私も正直言って休みなしで作業をしていたので、少し熱中症気味でした。今後は上流・下流と区間を分けて作業をするのではなく、草刈りとゴミ拾いというように作業内容で分けられないか考えたいと思います。大急ぎで、子ども達にジュースとお菓子、大人たちには麦の飲み物とコロッケを買ってちとせ園で、冷たい飲み物で喉を潤おして体を冷やし、お腹の足しになるものを入れてしばらく体を休めてから解散しました。



草刈り後（上流右側奥が青木橋、左側宅地開発地）



県営住宅跡地（ゴミ袋7袋と刈り取った草）

☆☆☆連載コラム☆☆☆

私が子どもだった頃番外編 ～畑の肥溜め～ 高桑正敏

小学校時代には、畑があれば、そこには肥溜めがあった。肥料として人糞を貯蔵するための穴で、ふつつ直径1mほどであった。穴はコンクリートできているものもあれば、掘ったまま？のものもあったように思う。穴の縁は板か何かで囲まれていたり、板でフタがされていたものもあったと思うが、何の枠もフタもないものも確かにあった。

西ヶ谷戸の北部の畑でみなと遊んでいたとき、1人がうっかり肥溜めに落ちてしまったのである。深さは60～70cmもあったろうか。上半身まで糞尿にまみれ、その臭いこと。みなには助けてもらえないどころか、「やーい、うんこたれ！」と笑われ、他人事ながら可哀そうになったことをよく覚えている。このとき、肥溜めは意外と深いことを知った。

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

今年梅雨から晩夏まで高温少雨でキノコは少ない夏でした。美味なアメリカウラベニイロガワリとカワリハツが少し楽しめたくらい。しかし生き物たちはにぎやかな移ろいを見せてくれました。種ごとにピークがあり森にはいるのが楽しくなります。



カブトムシ



アメリカウラベニイロガワリ



ノコギリクワガタ



佐野真吾が語る侍従会の思い出

～全国に侍従会を見せつけろ！侍従会四国旅～

2003年、この年私は高校生になりました。そして夏休みが始まる少し前に隊長の山田さんから1本の電話がかかってきました。「サノシン！川に学ぶ体験活動協議会の全国大会があるんだけど一緒に行かない？侍従会のことを全国に発表しよう！」「何ですかそれは？発表かあ～苦手だなあ～…」「徳島県でやるんだけど！」「なっ！？行きましょう☆」四国へ行けるという話に釣られて迷わず返事をしました。ちなみに後から聞いた話、数人しか行くことができない遠征に山田さんは私を推薦してくれたそうです。今更ながら感謝です。

さて、2003年8月3日、徳島へは夜行バスで行き、朝現地に到着しました。そして少し町を歩いてからホテルに入り発表の準備を始めました。侍従会からは山田さんと私、小学生のユリちゃん&メイちゃん姉妹が参戦しました。山田さん曰くかしこい小学生とキャラのいい小学生を考えた時、ユリちゃん&メイちゃん姉妹が思い浮かんで推薦したそうです！メイちゃんは私にすごく懐いてくれましたが、当時まだ子どもと接したことがなく慣れていない私は元気なメイちゃんのペースにアタフタさせられていました。

発表はお昼過ぎくらいだったでしょうか。当時人前で発表をするのが苦手だった私はいっぱいいっぱいだったのであまり全体の内容まで覚えていませんが、キャラのいい山田さんに、若い高校生、賢そうなお姉ちゃんと元気で無邪気な妹の小学生姉妹が舞台に出て来たことにより会場はほんわかした空気になったことを感じた記憶があります。おかげさま

で後日談によると侍従会はとっても評判が良かったそうです。

そして、発表が終わり懇親会ということで吉野川の河川敷でおこなわれる野外フェスティバルに招待されました。最初は地元の方たちとお話をしながらワイワイやっていたんですが、そのうち参加団体が舞台上がって一言スピーチするという流れになりました。すると我らが隊長山田陽治氏はとんでもないことを言い出したのです。



「サノシン！俺たちはバク転とバク宙で登場しよう！」「はい！？…何を言ってるんですか！？」すると奇策家山田氏は…「侍従会を全国にアピールするために一番目立つことをしたい！」と真面目に言いました。まじか…。こうして、私が最初バク転2回転で登場し「横浜の侍従川です！よろしくお願ひしまーす！！」と叫び、息を付く間もなく山田さんがバク宙で登場し侍従会について一言スピーチをしました。舞台から下りると山田さんは「会場の反応よかったね☆アピールできたね♪」とご満悦！確かにインパクトはあったかもしれませんが、おそらく会場のみなさんは、侍従会とは横浜のサーカス集団だと勘違いされたことでしょう。これが後の世にも語り継がれる侍従会伝説の一つ“徳島後方空回り伝説”です…。

さて、翌日は朝から吉野川でカヌー体験をさせていただき、その後大会は終了しました。この時点でユリちゃん&メイちゃんの一家は先に帰宅しました。私たちはというと帰りのバスが夜の便だったので、せっかくだから徳島を探検しようということになり、山田さんと二人で川や田んぼを探して歩き回ることにしました。詳しい場所は思えていませんが、豊臣秀吉が墨俣一夜城を築いた時の話に出てくる蜂須賀小六の墓があったことを覚えています。山田さんとは田んぼや川でトンボや魚を探りながらいろいろな話をしました。生きものや将来やりたいことの話、またこれからの侍従会の話など、少し大人になった私に山田さんはいろいろな話をしてくれましたし、また私の話も聞いてくれました。この思い出を書くうえで、先日山田さんにインタビューすると「お互いのことがよく分かってあの旅はオレとサノシンのこれからのつながりの転機だったね！」とってくださいました。

こうして山田さんとは長い付き合いとなっていくわけですが、そんな山田さんとの関係や侍従会のことを考えるキッカケとして徳島への旅は思い出深いものとなりました。そして、私はこの頃から“侍従会”というコミュニティを“自分は楽しく参加する子ども”ではなく、会に対する想いや希望、存在意義、自分の立場など様々なことに意識を持って考えていくようになるのです。

侍従川生き物図鑑 No.21

～ ユウマダラエダシャク ～ (シャクガ科)

学名 : *Abraxas miranda miranda*

体長 : (開拡) 40 – 50 mm

分布 : 侍従川流域全域

鮮やかな模様を持つ綺麗な蛾ですが、これは鳥の糞に似せている模様で、これによって天敵の鳥から身を守っています。流域では雑木林や草地で見ることができ、5 – 6月、8 – 10月と年に2回発生します。幼虫はマサキ、コマユミ、ツルマサキなどの葉を食べて育ちます。和名種類動かしません。



琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ リュウキュウアカガエル ～

学名 : *Rana okinavana* 体長 : 35 ~ 50 ミリ

分布 : 沖縄島、久米島、奄美大島、徳之島

沖縄島では北部地域の山林を流れる溪流や湿地で多く見られます。

日本のアカガエルの仲間では一番華奢な体系をしていて、色も他種より赤みが強い印象があります。繁殖期は11月上旬から4月らしく、アカガエルにしてはわりと長い期間のようです。泣き声はキュツ、キュツ、キュツと風呂を擦ったような声のようですが、あまり目立ちません。オタマジャクシは溪流の淀みや湿地の水溜りで生活します。



国頭村 5月



伏せた状態から起き上がった…

国頭村 5月

監修 : 熊井 (沖縄在住)

侍従川に侵出してきた生物たち！！

～果たしてその真相は！？～

2013年、侍従川では新たに3種類の生物が初発見された！



侍従川では2013年になって、新たに3種類の生物が初発見されました。初発見された生物はミナミテナガエビ、ゴクラクハゼ、カワアナゴです。これらの生物はなぜ突然現れたのでしょうか？そしてどこからやってきたのでしょうか？

新たに発見された3種の共通点

新たに発見された3種はいずれも南の地域に多い種類です。ではなぜ南の地域に住む生物が侍従川で発見されたのでしょうか！？

地球温暖化が原因！？

これらの種は、実はここ数年、侍従川だけでなく横浜や神奈川県各地で記録され始めています。これだけ多くの南方系種が記録されるのは温暖化が原因だと考えられています。南の地域から海を伝ってやってきているのです。

これからどうなるのか！？

2012年頃から大侵出した同じく南方系種のウロハゼがチチブを捕食する様子を侍従川で目撃しました。新たに侵出してきた種類と侍従川にもともといた魚はうまくやっていけるのでしょうか？今後しっかり観察していく必要があります。

(記) 佐野真吾





虫のきょういく座談会

～侍従会いち押し芸人 ヤンマーズ～



参加者：カズキ・ダイちゃん・ミツツー・佐野

2013年8月24日、この日は侍従会学生部&瀬上さとやまもりの会共催で“ヤンマとり大会”がおこなわれた。黄昏時のヤンマ（大型のヤンマ科のトンボ）を狙うため、集合は16時半だったが、1時間前から集合した者たちがいた。そのメンバーこそ学生部の主力部隊、カズキ（中2）、ダイちゃん（中1）、ミツツー（中1）である。そして総監督佐野はこの3人に試練を与えていた。

佐野「さて、以前にも話したと思うが、今日はみんなにコントをやってもらおうと思う！
君たち3人は今から“ヤンマーズ”だ！」

ミツツー「俺はコントのためにいろいろ用意してきたぞ！」

佐野「おお！ミツツーいいねえ！そういうノリを期待していたよ☆」

巨大な捕虫網を持参し、なぜか巨大なハスの葉まで持参し頭に被ってノリノリのミツツーであったが、こういう場において彼の役割は大きい。

カズキ「メンドくさ！で？何やるの？」

佐野「メンドくさいとか言うな！笑 やれば楽しいから☆」

ネタは考えてあった。内容を説明しよう。トンボの視力は非常に優れていることで知られている。しかし、アカトンボなどは目の前で指をグルグル回すと眼が回って簡単に捕まえられる。この現象は、トンボが眼を回しているのではなく餌だと思って集中しているからなのである。せっかく眼が良いのに頭が悪ければしょうもない！とツッコミたくなるが、そこは置いておいて、今回ヤンマとり大会の目的であるマルタンヤンマもそのグルグル眼回しで捕まえられるのか！？というのをコントで再現するのだ。

ダイちゃん「じゃあ3人がどの役やるか決めようよ！」

佐野「カズキはツッコミ役やってほしいなあ～」

カズキ「ええ～俺があ～？」

ダイちゃん「じゃあ俺がツッコミやるよ！ミツツーはマルタンヤンマ役がいいんじゃない？」

ミツツー「おう！俺がマルタンヤンマやる！！」

ダイちゃんはいざという場になると踏ん切り良くパッとやってくれる。中学生になって精神的に



も大人になった彼は場のノリにも合わせてくれるので助かるのだ。こうして3人はコントの練習をし、16時30分に開会式が始まった。参加者は40人以上が集まり思っていた以上に大所帯である。企画者代表である佐野が挨拶し、いよいよ茶番劇が始まった。

佐野「それでは！ヤンマとり大会を始めまーす！！」

ヤンマーズ「ちょっと待ったあ！！」

佐野「なんだなんだ！？…」

ヤンマーズ「ヤンマーズでーす！！」

カズキ「おいオマエ！トンボは目の前でグルグルやると捕まえられるの知ってるか？」

ダイちゃん「知ってるよ！！」

カズキ「じゃあ何でグルグルやると捕まるのか知ってるか！？」

ダイちゃん「知ってるよ！眼が回ってるんじゃないくて餌と勘違いしてるんでしょ？」

カズキ「よし！じゃあ！マルタンヤンマもグルグルで捕まえてみるよ！！」

ここでミッツー扮するマルタンヤンマがスタンバイし、ダイちゃんは指をグルグル回しながらスタンバイ、カズキは巨大な捕虫網を持ってスタンバイする。

ミッツー「マルタンヤンマ行きまーす！うおおおー！！」

マルタンヤンマはダイちゃんのグルグルを素通りして走り去り、その先で構えていたカズキの捕虫網にネットインした！！

ダイちゃん「これは（グルグル）関係ねえんかい！！」

ヤンマーズ「ありがとうございましたー！！」

佐野には参加者の皆さんからの大爆笑の嵐が聞こえた気がした。しかし、佐野はコントが終了すると間を置かず「ヤンマーズのコントでしたあ！！」と拍手をしてごまかした…。こうして華々しくヤンマとり大会が始まったのだが、その直後ダイちゃんに言われた。

ダイちゃん「誰も笑ってなかった気がするんだけど…笑」

佐野「…いや…みんな笑ってたよ！汗笑 こういうのが盛り上がるって重要なんだよなあ☆…」

ダイちゃん「…笑」

学生部にはまたコントをやってもらいたいと思っているのだが、みんなやってくれるだろうか。総監督兼脚本家佐野の挑戦はこれからも続く…

(おわり)



ふるさと大道村

「大道ふれあいむかし資料館」

約20年前より、金沢区内の方々からゆずり受けた古民具や農具、文書等を展示し、公開しています。

「大道ふれあいむかし資料館」という名の大道小学校2階にあるこの施設をなるべく多くの地域のみなさんに活用していただきたく、昨年度より改装を続けてきました。



ついに、大道小学校創立70周年行事に合わせて**10月5日(土)にリニューアルオープン**

をする運びとなりました。今後も大道村では土曜日等に修理・修復作業を中心に活動を続けています。みなさんもいっしょにこの資料館を育てていきませんか。地域を担う子どもたちのために…。



10月11月12月の開館予定日

開館時間10:00~12:00

開館日 同日開催行事

10月26日(土) ミニテイルズ文楽(18:00~)

11月23日(土) 六浦西地区こども文化祭

12月21日(土) 正月飾りづくり(13:00~)

大道ふれあい むかし資料館

むかし資料館の特色

「大道ふれあいむかし資料館」は、見学するだけの資料館ではなく、さわったり、手にとったりしながら学ぶことのできる**体験型の資料館**です。

農具や生活用具を実際に使いながら昔の人の苦勞や知恵を学ぶ「昔体験スクール」も開校しています。

今後は、地域のみなさんのご協力をいただきながら、「よもやま話の語り部」や「昔遊び名人」が常駐し、子どもたちと**地域をつなぐ「交流室」**としての役割を担う資料館をめざしています。

皆様のご協力をお願いいたします。



運営スタッフ募集中

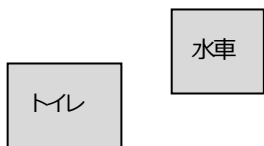
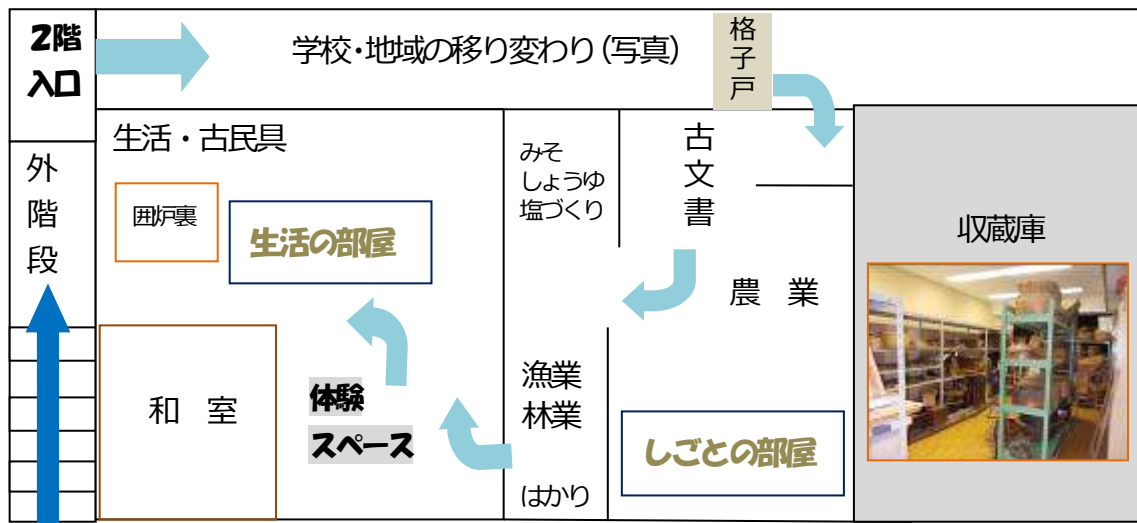
ふるさと大道村 (ふるさと大道の風景をつくる会)

エントランスの格子戸



館内案内図

館内入口は、トンボ池の水車の前です。階段を上がってスリッパにはき替えてお入りください。



たらいで涼もう



米を炊いてみよう



聞こう蓄音機

事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

－役員改選のお知らせ－

平成25年6月8日(土)に開催された“会員のつどい”で、役員改選が行われました。新役員は以下のとおりです。

- 1) 代表 山田陽治
- 2) 副代表 佐野真吾
- 3) 会計 田辺香代子
- 4) 事務局 長橋輝明
- 5) 広報 *河本充雄、廣瀬隆夫
- 6) 実行委員
 - 学生部生物調査クラブ *佐野真吾、瀧本宏昭
 - ジュニア探検クラブ *寺尾勝廣、山田陽治
 - クリーンアップクラブ *細川一雄、村田章夫
 - 学校活動スタッフ *伊藤憲生、玉利海太郎
 - 活動スタッフ 竹内秀弥、飯村優介

※：*印はリーダー

平成25年度は、1)無理せず、みんなで出来ることを楽しんでやる、2)自ら企画して主体性をもって活動する、3)子どもたちの安全を第一に考える、を活動方針として、役員一同頑張っていきますので、皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

◆10月以降の活動予定◆

☆定例クリーンアップ 10/27(日)、11/24(日)、12/22(日)

9時～12時 ちとせ園集合 ※雨天延期・翌週日曜

☆10/6(日) ハゼ釣り大会 9時～15時頃 大道小学校9時集合

午前…侍従川中流域及び下流域で釣り 午後…ちとせ園で、捌き&天ぷら調理

☆12/8(日) 冬のもりたんけん

☆1/11(土) ネイチャークラフト

■学生部の調査は、原則、毎月のクリーンアップの後、13時ちとせ園集合です。

≪編集後記≫ 猛暑の夏がようやく終わり、やっ

と秋らしくなりました。生き物たちもホッとしているのではないのでしょうか。(MK)

◎活動の詳細(集合時間・場所、持ち物など)は、ホームページをご覧ください。

<http://ji.jyukai.web.fc2.com/>